

# 医療通訳者の派遣団体について

2019年1月25日

一般社団法人全国医療通訳者協会

森田直美(代表理事)



# 一般社団法人 全国医療通訳者協会

- 設立年： 2016年
- 団体の趣旨：
  - 医療通訳者が医療通訳者のために設立した職能団体。目的は、**医療通訳の普及と発展**を通して、医療保健場面で通訳を必要とする人々の**健康と福利に貢献**していくこと。
  - 医療通訳を**専門職**として確立させ、社会的地位向上のための活動を実施。医療通訳者の**質や技能の向上**、医療通訳者の**労働環境整備**や医療通訳にかかわる問題への働きかけ、医療通訳**資格認証・研修制度整備**への働きかけなどを実施。
- 会員数 約220人
- 言語数：14言語（英、中国、韓国、ベトナム、タイ、ネパール、フィリピン、インドネシア、仏、ポルトガル、スペイン、ロシア、ヒンディー、アラビア）
- 特徴：ほとんどの会員が既に他の医療通訳団体、NPOや医療機関に所属して活動していること
- ホームページ：<https://national-association-mi.jimdo.com>



# 医療通訳のあゆみ

～日本でも医療通訳は始まっています～

1991年 AMDA国際医療情報センター設立。電話による医療相談・通訳開始

1995年 阪神淡路大震災、在住外国人支援NPOが活躍

2002年 神奈川県では、行政とNPOが協働で通訳派遣開始。診療の円滑化・医療安全上の必要性から現在では、約70病院に普及。

県内の診療所の医師

「重症化したら近隣の病院に送れば通訳が派遣されるので助かる」

# 全国の医療通訳派遣団体

- 38の自治体・国際化協会, NPOが医療通訳を育成派遣(2018年)
- そのうち15団体に 23言語 で1507名いることを把握。(NAMI, 2018年)

(英語、中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、ベトナム語、タイ語、ネパール語、マレー語、インドネシア語、カンボジア語、ラオス語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、モンゴル語、ロシア語、アラビア語、ペルシャ語、ミャンマー語)

## 残り23団体の調査も実施中

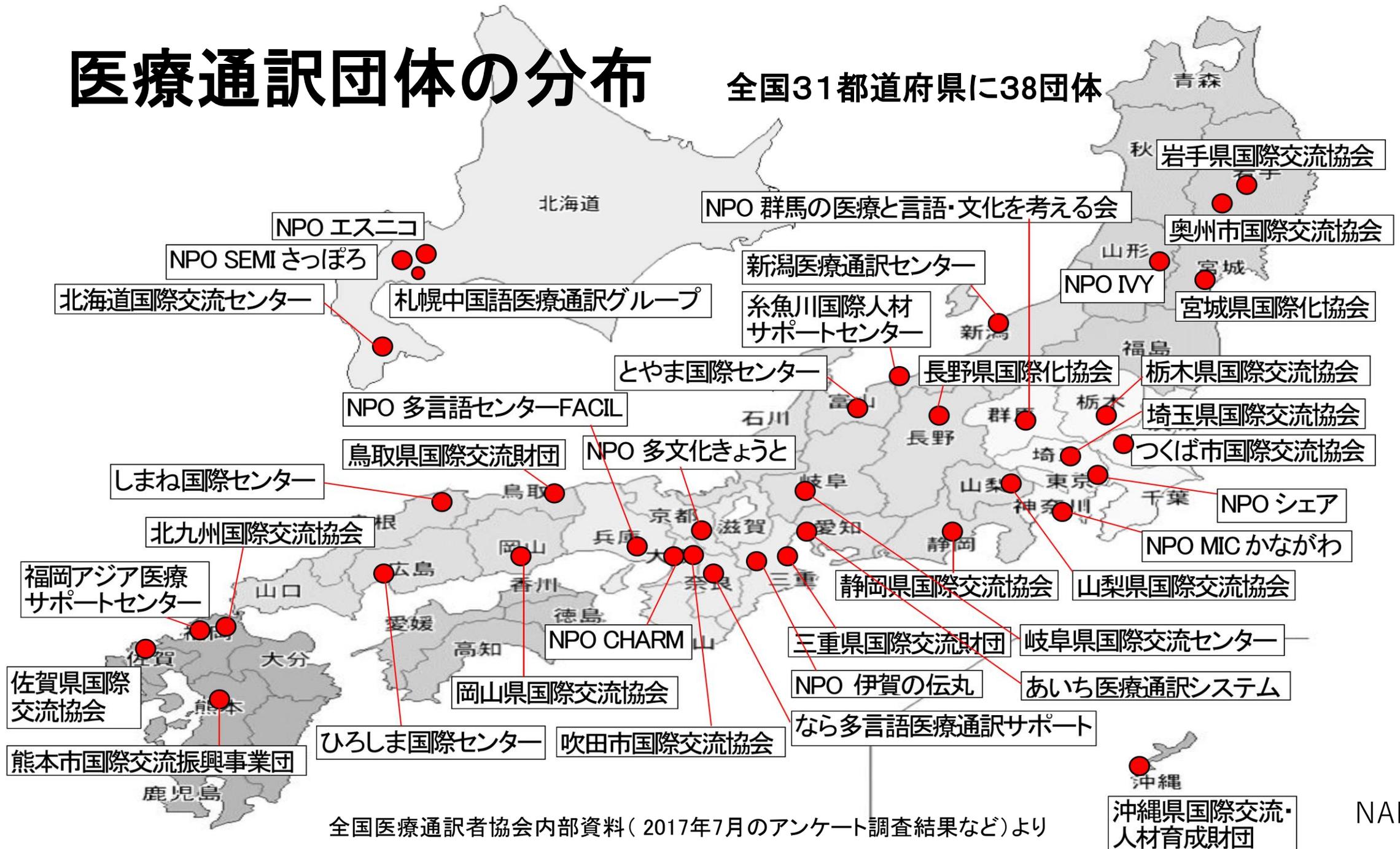
- NAMIのホームページに「医療通訳派遣団体リスト」掲載

<https://national-association-mi.jimdo.com/>医療通訳派遣団体リスト/



# 医療通訳団体の分布

全国31都道府県に38団体



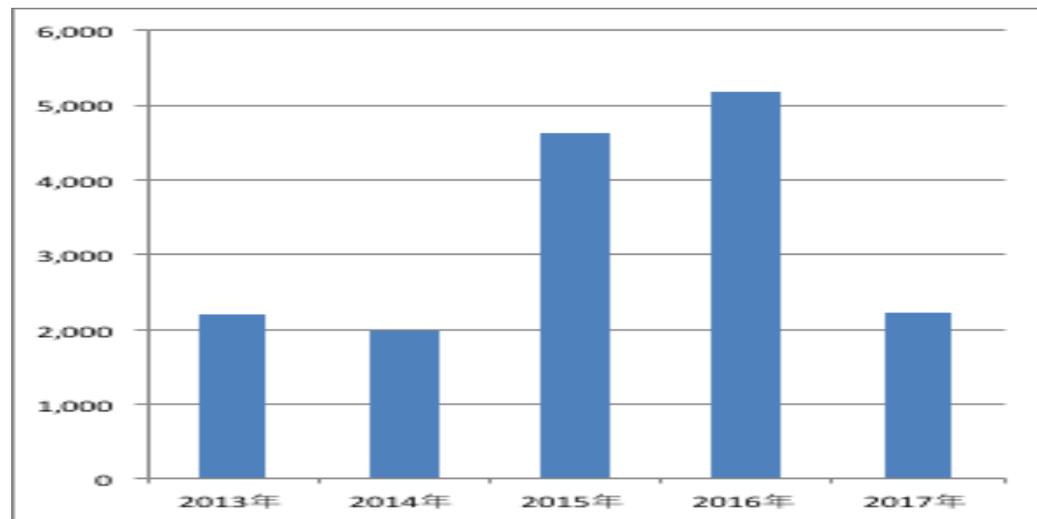
全国医療通訳者協会内部資料(2017年7月のアンケート調査結果など)より

# 2017年度主要38団体派遣実績（約16,600件）

## 実績の多い団体①

- 三重県国際交流財団
- 通訳実績 2,214件
- 通訳配置機関数 2医療機関、2保健センター
- 通訳言語(ポルトガル語、スペイン語)

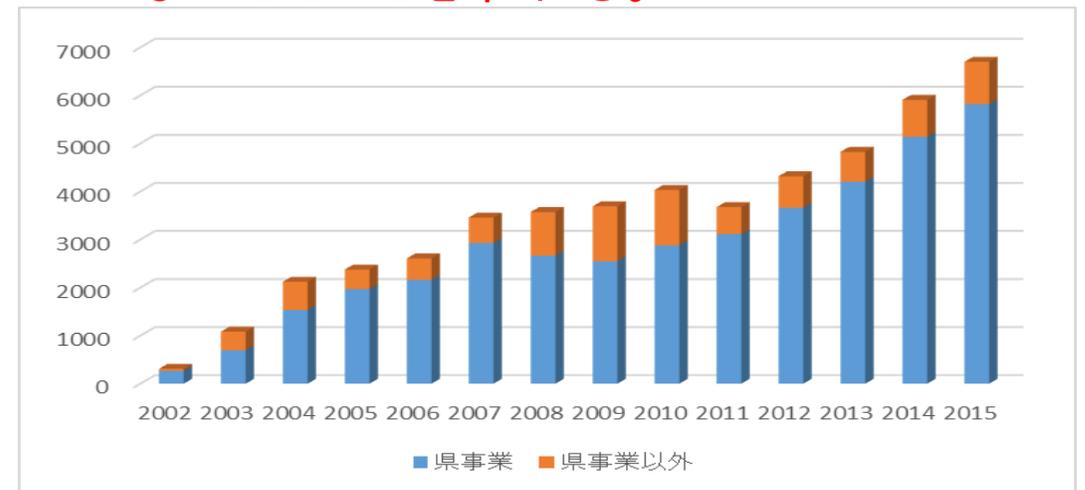
◆2017年の減少は財団通訳への委託から病院雇用への変更による。雇用創出に重点。



## 実績の多い団体②

- MICかながわ
- 派遣実績 7,185件
- 県内の協定医療機関 70病院
- 派遣言語別(12言語)

◆増加は、子どもや知り合いに通訳を頼んでいたのを、病院の医療通訳に依頼するようになったためと思われる。



# 対面式医療通訳利用の特徴

医療者	<p>逐次通訳なので、細かいニュアンスを伝えることができる 内容が伝わっているか、話のつじつまが合っているかを確認することができる 相手のタイミングを見ながら話せる すべての情報を言語化しなくても、視覚情報をフルに生かし「これ、それ」などの指示語を交えて話ができる 訳がクリアに聞こえる</p>
患者	<p>主訴や状況を正確かつ十分に伝えることができる 患者の理解レベルに合わせた通訳を得ることができる 通訳の寄り添いから安心感を得ることができる 院内をエスコートしてもらえる</p>
通訳者	<p>原発言がクリアに聞き取れるので、聞き間違いを回避できる 必要に応じて、内容や単語の確認、辞書が引ける 非言語メッセージから意図をくみとることができる 視覚情報を十分に利用できる 医療者と患者間の誤解を大きな問題となる前に察知することができる。 医療文化や習慣の違いに気づき、確認を促すことができる 医療者と患者の間にある不均衡（医療知識、理解の差、力の差など）を緩和できる</p>

**医療安全、患者満足、適正医療の実現に貢献**



# 対面式と電話通訳のメリット・デメリット

タイプ	よく聞こえる、確認しやすい	視覚情報が得られる（非言語コミュニケーション）	手配が楽	待ち時間がない	簡単な話に適している	複雑な話に適している（手術の同意など）	緊急時	料金	寄り添いの気持ち	使いやすさ
対面式	●	●	▲	×□	●	●	×□	安い	●	?
電話	▲	×□	●	●	●	×□	●	高い	▲	?



# 主な課題

医療通訳の受益者、患者・医療機関・自治体の利益のために・・・

## 人材・研修・雇用関連

- 通訳に求められるスキルは、対応する患者タイプにより異なる  
在住外国人対応 / 治療目的の訪日患者対応 /  
大学病院や高度先進医療機関で職員通訳として働く/
- 新興国(ベトナム、ネパール、インドネシアなど)の通訳育成が追いつかない
- 研修・報酬を整備して外国にルーツを持つ方の雇用の促進に
- 遠隔通訳には高度のスキルが必要。地域で活動して対面式通訳経験を積んでもらうためにも現在の派遣体制は必要

## 報酬・利用関連

- 人材が確保できるだけの謝金の必要性  
せめてアメリカ並み(1時間30ドル)にしたら普及するのでは・・・
- 通訳費を全額患者負担にすると、負担できる人は限られてくるので利用は進まない

## 運用関連

- 対面式、電話通訳、ICTなどを組み合わせ、資源の効率化
- 医療通訳が使えないと、外来で言葉の不自由な患者さんの対応に時間がかかったり、誤解やトラブルが増えて医療機関の負担が増える
- 「生活者としての外国人」を支援する政策に病院へのアクセスに必要な「医療通訳」を含めて欲しい